

貧酸素水塊速報 (2020年)

【発行】 ○ 千葉県水産総合研究センター
 神奈川県水産技術センター
 千葉県農林水産技術会議
 内湾底びき網研究会連合会

【協力】 千葉県環境研究センター
 東京都環境局
 第三管区海上保安本部
 (国)国立環境研究所
 ○ モニタリングポスト(海上保安庁, 国土交通省 関東地方整備局)
 (今回の速報は“○”の機関の観測データを使用して作成しました)

令和2年8月31日観測結果

貧酸素水塊は内湾北部から中の瀬西側にかけて広く分布していました(図1)。特に内湾北部の一部では、溶存酸素量が0.5 mL/Lを下回る無酸素状態に近い水塊がみられました。

縦断ラインでの鉛直分布では、川崎人工島北側において貧酸素水塊の厚みが10m以上あり(図2)、規模が大きい状態が続いています(図3)。

水温は表層27~30℃, 底層18~29℃です。

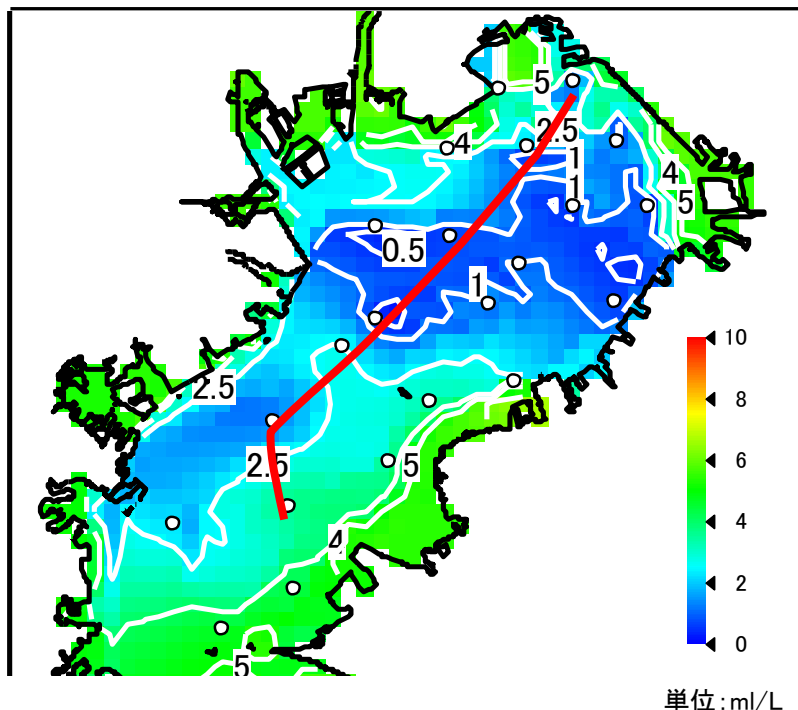


図1 底層の溶存酸素量分布 (赤線は縦断ライン)

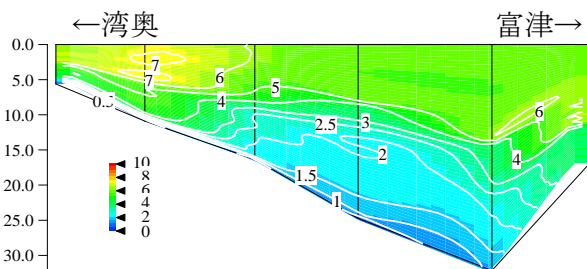


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布

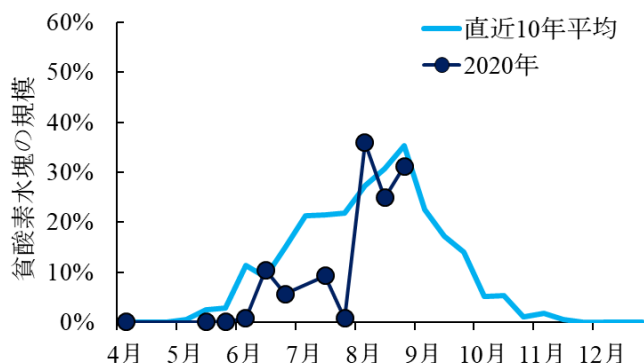


図3 貧酸素水塊の規模
(左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)